

竹原市民会議 i n 2 0 1 9

実施報告書

2 0 1 9 年 6 月 1 3 日

一般社団法人竹原青年会議所



一般社団法人竹原青年会議所は SDGs を推進いたします。

はじめに

1. 事業名

竹原市民会議 i n 2 0 1 9

2. 実施に至る背景

昨年11月に行われた竹原市議会議員選挙後、新たに始動した竹原市議会への
広聴の機会として、また昨年7月の西日本豪雨災害により大変厳しい財政となっ
ている竹原市の現状と将来について、市民が真剣に考える機会として、市民と竹原市
議会が一堂に会し、意見交換を行う必要があると考え、事業実施に至った。

3. 事業目的

本事業は、市議会、市民が一体となり現在竹原市が抱える諸問題を解決、発展
させる足掛かりをつくることを目的とする。

また、2016年に改正された選挙権年齢の引き下げに伴い、高校生も対象
とした事業とすることで、竹原市民全体の政治的関心、興味を高め、年々減少傾向
にある投票率向上のきっかけをつくることを目的とする。

4. 事業概要

(1) 開催日時 2019年4月21日(日)
17:00~19:30

(2) 開催場所 ホテル大広苑
竹原市竹原町3591

(3) 参加者 一般参加者数 約50名
出席市議会議員 9名

(4) 事業内容 ①2019年度竹原市予算報告
②高校生に聴く「こんな竹原市になってほしい」
※県立竹原高等学校生徒会執行部3名による発表
③市民に聴く「こんな竹原市にしていこう」
※竹原青年会議所員による事前アンケートの集計結果と
意見傾向の発表

④参加者に聴く「こんな竹原市にしたいんだ」

※下記の質問について、ご参加者の中から抽選により2名の方が発言

質問1「まちをより良くするためのご意見」

質問2「竹原市議会へのご意見」

⑤市民会議採択～市民の意思表示～

ユニーク条例を考える（4～5案）

※ユニーク条例の中から参加者による採択

5. 意見収集方法

(1) 事前アンケート

会議当日ご参加できない方を考慮し、事前アンケートを実施。出身地、年齢、性別、職業などの記入者の情報の他、まちを形成する4つのテーマ（教育、人口、観光、暮らし）と市議会に対する意見を尋ねる設問を設定、さらに高校生向け、一般向けに質問内容を変え、自由記述式によるアンケートとした。

① 配布枚数 2,785枚

② 配布方法 竹原市内公共施設、企業、店舗への配布、設置

③ 告知方法 上記配布、設置先へのポスター掲示、竹原青年会議所HP
Facebook、タネット放送、中国新聞

④ 回収枚数 819枚（回収率29.4%）

※内、高校生182枚、一般637枚

(2) 当日会議内にて

①発言希望者の中から抽選にて2名選出

②挙手にてユニーク条例案提案（結果3名が発言）

市民からの意見

1. 事前アンケート

(1) 高校生に聴いてみた「こんな竹原市にしてほしい」

設問①) 記入者情報

県立竹原高等学校 竹原市内外問わず調査 計 143名

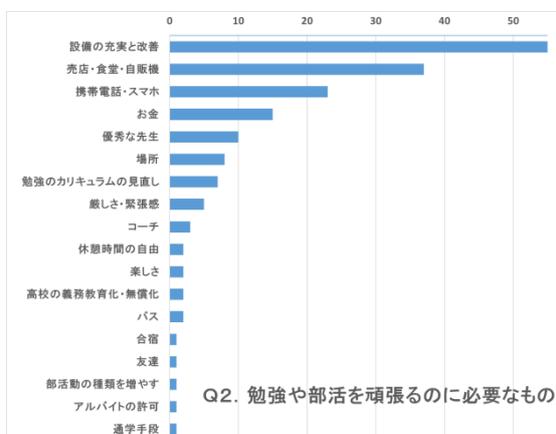
県立忠海高等学校 竹原市在住の生徒のみ調査 計 39名

※アンケート配布時に在学している1、2年生を対象

設問②) 教育「勉強や部活動を頑張るために必要なもの」

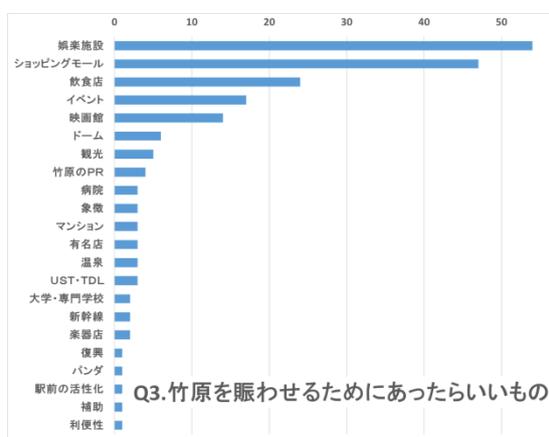
アンケート調査の

結果「施設設備の充実」が最も多く見受けられた。具体的には、グラウンドの夜間照明や部活練習に関するもの、電子黒板やタブレットの充実など学習に関するもの、空調設備やシャワー室など健康や衛生に関するもの、その他「緊急時のスマホの使用」を認めて欲しいといった意見が多く出されており、これについては学校・生徒・保護者で話し合いが行われるとのこと。



設問③) 人口「竹原を賑わせるためにあったらいいもの」

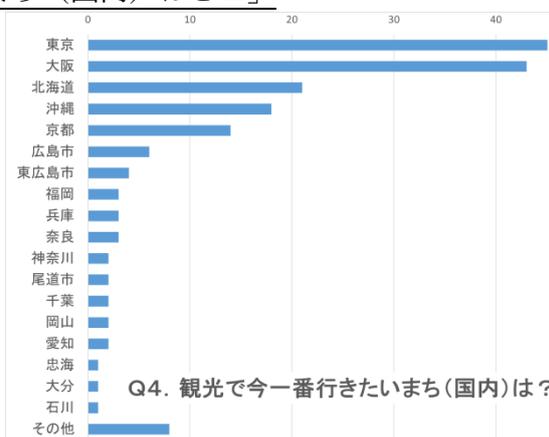
「娯楽施設」「ショッピングモール」との回答が多く、具体的には映画館やカラオケ・ゲームセンターなど身近な娯楽施設や大型小売店を挙げる意見が多かった。スポーツ関連では「野球場」「ボウリング場」「ボルダリングジム」など運動を『楽しむ』施設を求める意見が多く見受けられた。また、「たまゆら」や「竹原の町並保存地区」を活かしたイベントや



「竹工芸」など竹原を象徴するような「お土産」が必要との意見もあった。さらに、「産婦人科の開業」「移住者への公共料金の補助」「古い建物の撤去」といった竹原市が抱える問題点を突くような意見までも見受けられた。

設問④) 観光「今一番行きたいまち（国内）はどこ」

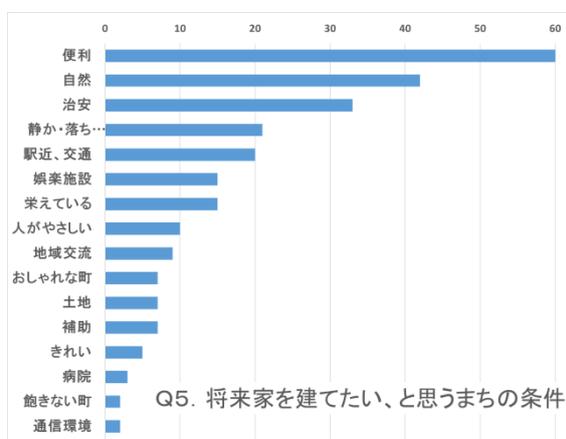
「東京」「大阪」との回答が圧倒的に多く、都会に憧れている方が多い印象を受けた。「ディズニーランド」など豊富な娯楽施設や「ライブ」や「コンサート」など「文化的イベント」が多いこと、「有名店」や「人気のファッション」「おいしい食べ物」があるなど『賑わっているまち』に魅力を感じているようだ。



また、「北海道」「沖縄」「京都」という回答も多く、「自然との触れ合い」や「歴史的な町並み」といった各地のもつ特色に惹かれているようだ。しかし、竹原にも「美しい自然」があり、「歴史を感じることができる町並み」があり、「おいしいお酒や食べ物」も揃っていることから、この魅力ある資源をいかに発信し認知いただくか、この必要性を再認識させられた。

設問⑤) 暮らし「将来、家を建てたいと思うまちの条件」

「利便性」がトップに挙がり、次いで「自然環境」「治安」「静かさ・落ち着き」となっており、「人口」や「観光」の設問で回答が目立った「都会」ではなく、利便性、安全性などの『住みやすさ』を重視しているところや、『自然があり、静かで落ち着いていること』を求めているのが印象的で『行きたいまち』と『住みたいまち』では大きく異なることがうかがえた。その



他、「土地や税金が安いこと」「子育て支援」「教育費補助」「まわりの人がやさしい」などの意見があり、経済的、精神的な安定を望む声も散見された。

(2) 竹原市民に聴く「こんな竹原市にしていこう」

設問①) 記入者情報

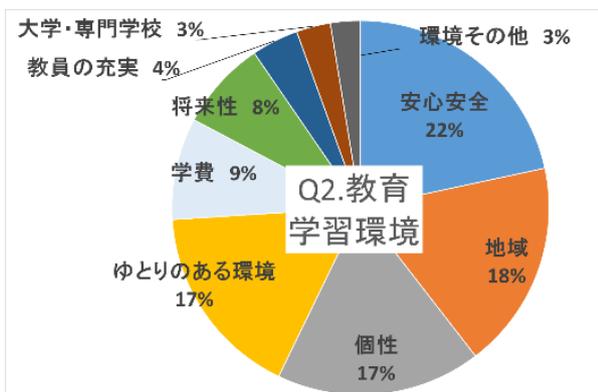
※竹原市内在住の方及び竹原市へ勤務されている方を対象

【出身地】	竹原市内	365名
	竹原市外	240名
	未記入	32名
【性別】	男性	244名
	女性	375名
	未記入	18名
【年代】	10代(高校生を除く)	4名
	20代	73名
	30代	122名
	40代	179名
	50代	120名
	60代	86名
	70代	38名
	80代以上	8名
	未記入	7名
【職業】	学生(高校生を除く)	6名
	自営業	41名
	会社員	378名
	公務員	14名
	主婦(夫)	38名
	パート/アルバイト	89名
	その他	33名
	未記入	38名

設問②) 教育「どんな教育が受けられたら、子供や孫を通わせたいか」

「教育」については、大きく「環境」と「教育の2つに分けた。

最初に、「環境」については「いじめ」がないこと、生徒一人ひとりが「集中して学べる」落ち着いたクラス環境と答えた方が最も多く、次いで「地域との交流」ができること、取り分けて「ボランティア」

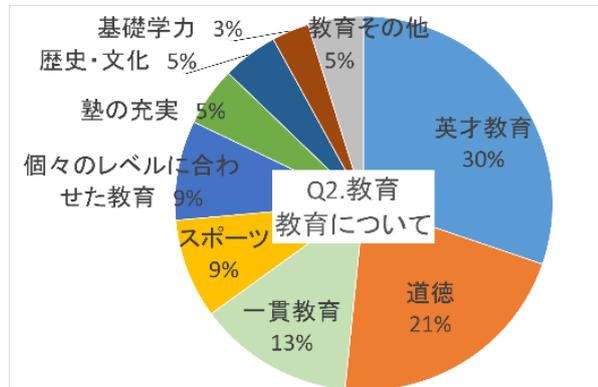


や竹原の「人や自然とふれあえる」ことで地元を好きになれるような地域との交流を望む声が散見された。

また、「個人のペースで学べる」ゆとりや「生徒一人ひとりと向き合える」ような教育環境、そしてそこには生徒のみならず、「教員」の側にも「ゆとり」をもって、生徒と真摯に向き合う時間が必要であるという意見もあった。

その他、「ICTの導入」や「選択科目の充実」など「自ら学び」「個性」を育めるシステム、「学習環境」が求められていた。

次に、「教育」についてはこれからの社会に必要な「英会話」や「外国語によるコミュニケーション能力」の育成、「ICT教育」の導入による他地域間との連携した「グローバルな英才教育」を勧める意見が



最も多く見受けられ、これからの将来性を見据えたカリキュラム設定が要求されている。

次いで、最近増え続けている「いじめ」問題などを減らすために、社会性や善悪の判断を身に付けさせる「道徳」授業を充実させてほしいという意見が多く見受けられた。

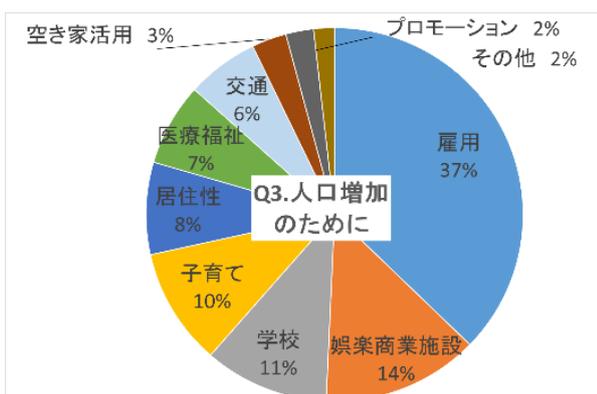
他にも、スポーツ活動の充実として「部活動の充実」、それに伴い「教員の充実」や、人と触れ合うことが少なくなってきた昨今、「ふれあい授業」を行うことで人との触れ合いを楽しめるような教育、竹原の「歴史・文化を学べる」などの「地元愛」を育める教育についても散見された。

設問③) 人口「人口増加とりわけ若年層、労働人口を増やす為には何が必要か」

最も多かったのは「雇用」の問題についてで、「若者が働ける企業の誘致」のみならず、高齢になっても働ける環境を見据えた「高齢者による労働力の強化」という意見もあった。

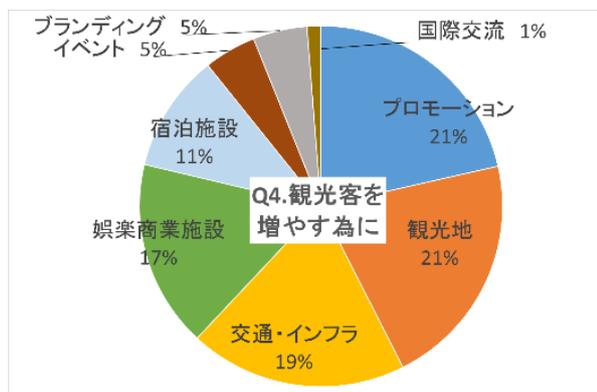
また、定年退職や早期退職などで引退した方や若くして起業するために「Iターン」や「Uターン」で竹原にやってきたときに「新たなことに挑戦できるような環境づくり」を求める声もあり、それに合わせて地域に「特定エリア」を定め、「税制などの優遇」を施し、「商売」とりわけ「起業」や「独立」をしやすくする、経済特区の提案も多く見受けられた。

続いて、大型ショッピングモールやカラオケ、映画館といった「娯楽商業施設の誘致」が挙がり、利便性と賑わいが求められており、さらに女性の方の多くが「総合病院」「産婦人科」「小児科」という「医療」の充実を求める声が多く、「安心して子育てができる」環境を求められているように感じた。



設問④) 観光「国内外問わず、観光客を増やす為には何が必要か」

「プロモーション」と「観光地」、「交通・インフラ」がとりわけ多く、インターネット上にもっと観光客が求めている情報、瀬戸内海の景観の素晴らしさをアピールし、それを観ることができる観光スポットなどをイラスト



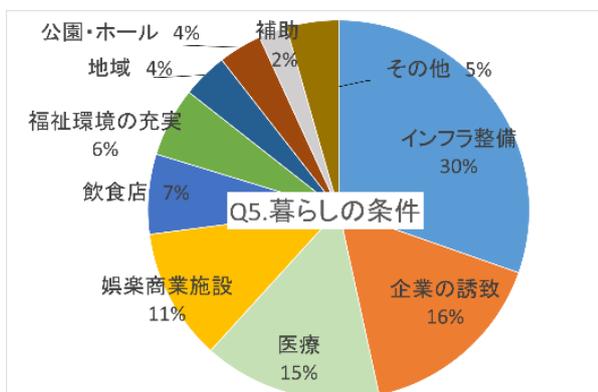
マップや外国語での案内を載せていくべきではないかという具体案も見受けられ、観光資源のさらなる広報を求めているようだ。

若年層からは「SNS」や「インスタグラム」に載せたいような場所を増やしたらどうかという意見や「体験型・滞在型」の観光プランを用意するという「観光」の在り方の見直しを問うような意見も多く見受けられた。また、そのためには「竹原市民の受け入れ体制」の改善が必要との指摘意見もあった。市民の「竹原の観光資源」に対する知識、理解を深めるとともに、行政頼みに

しない市民の「意識改革」も必要との意見もあった。

設問⑤) 暮らし「生活する上で何があれば、より暮らしやすいか」

設問Ⅳの「観光」でも上がっていた「インフラの整備」が最も多く、「車を持たない高齢者」や「観光客」などの移動手段の充実、飛行機や新幹線との接続が悪いなど、「利便性」の具体的な改善を求める声が多く、各公共交通機関との連携が求められる。



また、高齢者が増えている今、「歩道や施設のバリアフリー化」の声が多く、町中のちょっとした歩道の段差なども見直しが必要となりそうだ。さらに、裏道などに入ると特に秋冬の夕方は道が暗く、通学や女性の買い物などで不安に思う方から「街灯の増設」を求める声も多かった。その他にも安全面についての意見が多く、「利便性」と「安全性」の確保、改善を強く求めているようだ。

2. 当日会議内にて

(1) 参加者に聴く「こんな竹原市にしたいんだ」

※下記の質問について、ご参加者の中から抽選により2名の方が発言

質問1 「まちをより良くするためのご意見」

質問2 「竹原市議会へのご意見」

【発言者①】

竹原市の木である『竹』に関する発言があり、2つ提案がなされた。

提案1) 竹細工などを作る上で必要な「白竹」を竹原市の事業として起こすのはどうだろうか。

現在では、大分県別府市から仕入れているため、運賃もかかり仕入単価としても高くなってしまおうという。それにより、技術者たちが練習することが困難であるという状態。そこで、竹原市で敷地や設備を整えていただくことで、比較的安価で仕入れることができ、竹原市の純特産『竹工芸品』とすることができる。また、技術者の方たちの練習量も増し、技術力の向上となり、多くの商品化にも繋がるのではないかと。

そのためには竹藪の整備が必須で、さらに複数個所の整備が必要とされる。「3年以上の竹」も必要とされ、毎年同じところから伐ってくることができない。竹工芸に携わる一部の方のご意見として「竹の種類」も1種類のみならず、複数種あればより工芸品の幅が広がるようだ。「1種類で最低3か所の竹藪」が必要とされ複数種となるとその倍必要となる。

これらの環境整備をすとなると、その為の雇用にも繋がり、竹工芸に魅了された方、その協力者の方などの移住にも発展していくのではないだろうか。

提案2) 竹を使った「竹炭」について、竹原市として支援していただくことはできないだろうか。

竹原市の小吹で活動されている佐渡さんが手掛けている「竹」を使った竹炭は不思議と有害物質が非常に少ないという。そこでこの竹炭を普及させるためにも竹原市として支援をお願いしたい。

※質問2「市議会へのご意見」についての発言はなかった

【発言者②】

竹原市の『今後』について発言があった。

- ・ 忠海自治会総会後のご参加の方。
- ・ アンケートなどへの議員による意見・返答を聞いて、議員の方々が色々考えていることが分かった。その中でインバウンドの話があり、私も子どもたちと観光客の方のために何かできないかと取り組んでいる。
- ・ 竹原市総合計画の「たけはら元気プロジェクト」で期待しているのは前期の5年間で取り組むこと。それが果たして本当にできるのか。
- ・ 総合計画の中にいろいろと書いているが、今、この会議においては「これ」という方向性、「柱」となるものを明確に示していただきたい。
- ・ 「元気プロジェクトの道筋はできているのに、それをするにもお金もない、人もいない」この状況において、議会や行政として「たけはら元気プロジェクト」の位置づけはどういうものなのか、明確にして欲しい。
- ・ 災害復興も大事だが、観光地として、歴史文化遺産である「木村城の復旧」はいつやるのか。
- ・ 自助公助共助という言葉があるが、市民としての「自助活動」はそれぞれで取り組んでいるいると思う。しかし、行政や議会としての「公助」

は何をされるのか、その方向性と強い意志を見せて欲しい。

(2) 市民会議採択「ユニーク条例を考える」

意見①) 防災と健康に関する条例

去年の大災害を経て、災害とはひとつの戦争だと感じた。そこで、市民をあげて「防災の日」というのを作って、それを条例で定め、月に一度動ける人は町中に出てくる。それぞれのグループで活動することで、健康増進にもなる。家の中に閉じこもっている人も出てもらい、毎月1回、清掃や専門家を招いて現場を歩きながらシミュレーションを行う機会をつくる。それはすなわち、健康でなければ逃げられないということでもある。自助共助公助の「自助」として、自分の命は自分で守らなければならない。そのための健康づくりであり、これは生涯学習、生涯現役にも繋がる。一番の防災は健康であること。いくら防災訓練をしたところで、健康体でなければすぐに動けず、意味をなさないと考え、防災訓練と合わせて健康体であるための訓練も必要だと思う。

意見②) あいさつ条例

大久野島で観光客のご案内係を務めているが、そのとき大変喜ばれ、驚かれることが町の人としきりに挨拶をすること。よくおもてなしというが、「こんにちは条例」や「あいさつ条例」を決めて、何日か必ず町並みに出てきて、観光に来られている人に「あいさつ」をする。あいさつはすべての基本となるため、地域のコミュニケーションや防犯にも繋がると考えられる。また、独り暮らしの高齢者による孤独死などの早期発見や予防にも繋がるのではないだろうか。

意見③) 歴史的資産の活用条例

観光というところで、森川邸などが挙げられるが、行ったところで誰もいない静かなところでハードな資産だけを見る。そうするとまた来ようという気にならない。そこでそうした資産を使い、毎月、近隣に住む人たちで色々な交流会をすることで、観光客から見たときに何か賑やかにしている人とふれあえる。そうするとリピーターに結び付くのではないか。そのためにもっと市民が観光資源を良く知る必要がある。「昔の歴史的資産です。どうぞご覧ください。」では人は寄ってこない。そのためにそこで学びの機会を設けたりすることで、市民

のグループ活動が広がるので歴史的資産を活用してはどうか。
竹原には町並保存地区以外にも歴史的資産が多く点在している。
それら歴史的資産の強みを行政や議会はもちろん、市民ももっと活用
していくべきで、その為のイベントや施策をするようにするための
条例案として提案する。

意見④) 日本酒で乾杯条例

京都府京都市で取り上げられ、ここから全国に派生し広がった条例。
同様に酒どころである竹原市としても、イベント行事や居酒屋での
乾杯の際には竹原の酒で乾杯をしてもらうことで竹原をPR、また
竹原の酒への興味関心を深めてもらい、日本酒の消費を促すことで
竹原の地域の活性化に繋がるのではないだろうか。

以上の4案について採決を行ったところ、賛成多数によって全案可決、本案を
竹原市議会に提案することとした。

会場アンケート

①記入者情報

【性別】 男性 21名
女性 7名 計28名回答

【年代】 20代以下 0名
20代 1名
30代 1名
40代 3名
50代 6名
60代 8名
70代 4名
80代以上 1名
未記入 4名

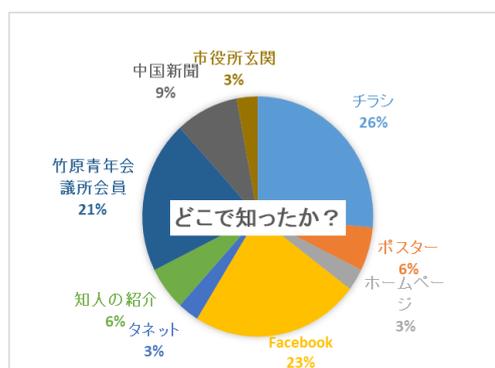
【地域】 竹原市中央 1名
本町 6名
下野町 2名
吉名町 1名
忠海町 3名
竹原町 3名
その他 8名

(市外) 広島市西区1名、東広島市3名

②当日イベントについて

【認知度】

「チラシ」、「Facebook」、「竹原青年会議所会員」からの認知度が高かった。当日の告知であったにもかかわらず、「中国新聞」を見て来られた方も少なからずいた。いずれにせよ、定員200名に対し約50名の参加に留まったことを反省したい。

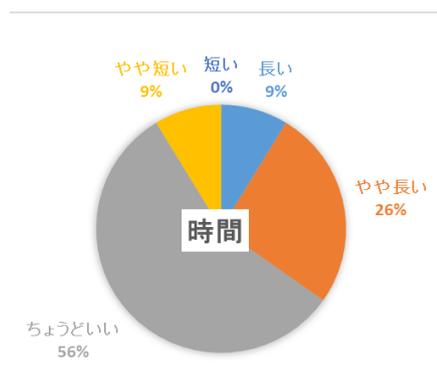


【事前アンケート記入の有無】

事前アンケートを「記入した」方は参加の約3分の1で、記入していない方の参加が多かった。記入しなかった理由としては、「知らなかった」や「手に入らなかった」「直前で知ったから」というものが多く、集客方法同様この点についても反省、見直しを行いたい。

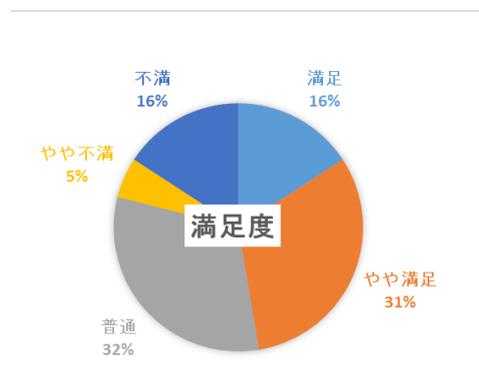
【満足度】

概ね「満足」いただけたようだが、「不満」であった方も一定数いらっしゃった。しかし、その理由を尋ねる設問がなかったため把握することができずこの点を反省したい。また、満足いただきつつも「初回だから」という温情の声もあったため、本アンケート及び参加者、関係者の声を取り込んだより良い事業となるよう検討していく。



【時間】

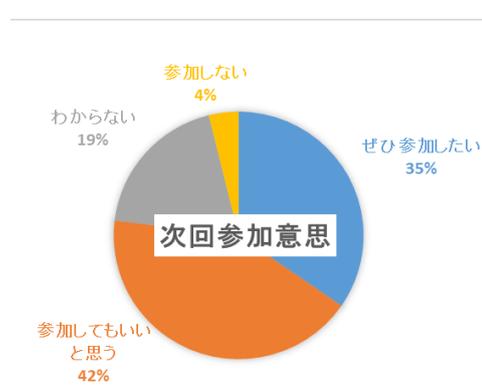
「ちょうどいい」の回答が多くを占めた。しかしながら、「時間のわりに中身が薄く、長い」という意見や「議員からもっと具体的な活動や考えを聞いたかった」という「物足りない」という意見もあり、今後企画検討する上での反省材料としたい。



③次回開催について

【次回の参加意思】

8割近い方が参加に前向きな回答であった。その理由は、今回の事前アンケートや当日発言であがった「課題」について、議会や各議員がどのように取り組み、その結果竹原市としてどのように動き、どんな結果に繋がっていくのか知りたい、という意見が多くの方から寄せられ、今後の活動や進展に高く期待していることがうかがえた。



また、「わからない」、「参加したくない」と答えた方も少なからずおり、企画全体の見直しはもとより、この後も本事業に係る活動報告を行うことで意義のある会議であったとご理解いただけるよう努めていきたい。

【次回希望日程】

『曜日』については、ほとんどの方が「今回と同じ」で良いとされており、今回の開催に差し当たっては概ね良かったのではないかと史料。『時刻』については、多少意見は分かれるものの「その他の希望時刻」でも夕方を支持する声が多く見られた。

④竹原青年会議所への期待

本事業継続の声や市民、議会とのパイプ役としての役割に期待しているなどの記述があり、これらの期待に応えられる活動を今後も行っていきたい。さらには、竹原を元気にして欲しいというご意見や、もっと「つながり」を作り、活動幅を広げてほしい旨の声も寄せられた。弊所も会員数の減少等厳しい事情もあるが、市民の声を支えとして各関係先のご支援もいただきながら活動して参りたい。

⑤感想、その他ご意見

感想については、様々なご意見やご提案、そして本事業への厳しいご意見も種々頂戴した。期待の表れと受け止め善処していきたい。また、会場アンケートの中にもユニーク条例の案を出されている方もいて、提案方法や時間に余裕があれば、さらに良い案が出てくる可能性もあったのではないかと史料。この点についても反省し、検討したい。

終わりに

弊所は、これまでも市民と議会、行政を繋ぐ様々な事業を展開して参りました。今回は、竹原市がおかれている危機的状況を踏まえ、議会や行政任せではなく、市民に自らのこととして真剣に考えていただきたい、そのような思いから市民による市民のための会議開催を検討、弊所例会事業として開催することといたしました。

しかしながら、市民に対し隅々まで本事業を周知することができず、当日の参加者が定員を大きく下回り、また会場アンケートの結果からも多くの課題を残す形となりましたことを深く反省しております。一方で、限られた時間の中で多くの事前アンケートを回収できたことや参加者から次回も参加したい、継続してほしいとの声が多く寄せられことから、市民のまちに対する高い意識や本事業開催意義を改めて確認することができました。

本事業を通じて最も申し上げたいことは、「市民は明確な変化を求めている」ということです。無論、財政的な可否や既に施行している改革など、精力的に取り組まれていることは十分に承知しておりますが、市民はその実感を得られていない、というのが現実のようです。しかし同時に「このまちを活気あるまちにしたい」、「このまちを未来に残していきたい」というこのまちに対する強い愛着もうかがい知ることもできました。このことから、市民との対話をより深く、密に行うことが重要ではないかと感じました。また、多くの市民が竹原市の厳しい現実を理解していることから、実現性に疑問符がつくような理想論ではなく、例え痛みを伴うようなものであっても現実的かつ具体的な政策を明快に打ち出すことが、市民が最も期待する「変化」なのかもしれません。そして、これがまさに市民、議会、行政が一体となったまちづくりの第1歩ではないかと考える次第です。

本報告書の他、実際に市民の方が記入された819枚の事前アンケートも併せてご提出させていただきます。是非一人一人の声に耳を傾けていただき、議会活動の一助としていただければ幸甚です。

最後になりますが、本事業実施に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りました竹原市議会議員の皆様並びに竹原市議会事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。この度の反省、課題をしっかりと受け止め、次の事業に活かして参る所存です。また、弊所はこれからもまちの発展に寄与できるよう、微力ながら様々な活動を実施して参ります。今後とも、弊所活動への深いご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人竹原青年会議所
2019年度理事長 新谷 章文